

第6回小田原市高齢者福祉・介護保険事業推進委員会 会議概要

日 時	令和2年（2020年）10月22日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
場 所	おだわら総合医療福祉会館 4階ホール
出席委員	◎武井和夫委員、○木村秀昭委員、渡邊千括委員、露木昭彰委員、高山和子委員、関田智彦委員、村上弘行委員、川井悠司委員、岡本淳子委員、瀬戸昌子委員、吉田トシ子委員、市川初江委員、関口清委員、脇本恭子委員 (◎：委員長、○：副委員長)
事務局	福祉健康部部長、福祉健康部副部長、福祉健康部ケアタウン担当副部長、高齢介護課長、高齢介護課介護給付・認定担当課長、高齢介護課副課長、高齢介護課地域包括支援係長、高齢介護課介護給付係長、高齢介護課介護認定係長、高齢介護課主事、保険課長、保険課国民健康保険係長、健康づくり課長、健康づくり課成人保健係長
欠席者	橋本健司委員、重松美智子委員
傍聴者	なし

1 おだわら高齢者福祉介護計画について

協議事項（1）第8期おだわら高齢者福祉介護計画（第2案）について

事務局

（説明）

- ・資料1～3について補足説明。
- ・前回委員会資料からの修正箇所、資料3の要点説明。

委員

（質問）

- ・総量規制について説明をしてほしい。

事務局

（回答）

- ・介護保険事業を行うにあたっては、サービスを利用させていただくと、介護保険料や介護保険財政に影響を与えるものがあるので、需給状況等を把握しながらどのような施設をどの程度作ればよいか判断する必要がある。資料1、88ページ記載の、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、特定施設、90ページ記載の、認知症高齢者グループホームが、総量規制の対象であり、保険者がどの程度整備を見込むかをコントロールするものである。

委員

(質問)

- ・資料1、90ページ記載の認知症高齢者グループホームの整備見込み数を令和4年度に18床増やすということは、12圏域全ての圏域でグループホームがあるということが理由であることは分かるが、小規模多機能型居宅介護については、まだ整備が不十分な地域があるなかで、全域で整備数を「1」にした理由を説明してほしい。看護小規模多機能型居宅介護と小規模多機能型居宅介護を分けて公募した方がよいのではないか。

事務局

(回答)

- ・小規模多機能型居宅介護を全域で整備数「1」としたのは、実態として住んでいる圏域とは違う圏域の施設の利用も見られることから、市全体を着実に整備していくためである。

委員

(意見)

- ・桜井の地域では、訪問や送迎に向かうのに20～30分かかり、こまめに訪問に向かうのには、往復で1時間近くかかるということが事業所の負担になっている。小規模多機能型居宅介護の売りが地域に根ざしたということを踏まえると、まだこの整備数では全域にするタイミングではないのではないか。

事務局

(回答)

- ・過去の小規模多機能型居宅介護の公募結果を見ると、平成30年8月、平成31年3月に公募選定でも事業者を選定ができなかった。今年度についても、令和2年4月2日から10月2日まで、整備していない圏域での整備を要件にして公募したが、選定することができなかったことから、幅広く市内全域を対象にすることで整備を着実に進めていきたいと考えている。

委員

(意見)

- ・既存施設に併設するのではなく、新しい法人が行う場合、小規模多機能型居宅介護単体では収支が見合わない。公募内容の見直しなど、手の上げやすい要件を検討するのも1つの方法ではないか。

委員長

(意見)

- ・小規模多機能型居宅介護のサービス内容からすると、地域性を要件からまったく外してしまうのは適正でないのではないかと。過去の実績を見ると、圏域を絞ってしまうと手が上がりにくい傾向があるのかもしれないが、例えば、全体で「1」とし、整備不足の圏域を優先的にするような附則を付けるなど検討してほしい。

委員

(意見)

- ・第7期計画とあまり変更点がなく、各事業の内容も変更がない。重点指針が入ったことは、よいことであり、基本方針に反映させることが大切ではないか。全体の建付けにおいて、目指している方向性と実施内容が乖離しているのではないかと。また、視点5『「新しい生活様式」を踏まえた事業手法の検討』は、資料のどこに反映されているのか。反映されているところが一目で分かるような作りになるとよいのではないかと。前回までの委員会で議論された内容が反映されていないのではないかと。
- ・資料3について、全国平均や神奈川県平均との比較をしているが、違うということが大事であり、その点を踏まえて小田原市の意思が入っているような分析をしてもらい、資料1に反映されるとよい。
- ・第7期計画で「検討していく」となっているが第8期計画でも「検討していく」という表現になっていることが気になる。
- ・介護予防に関する事業数が多いので、整理した方がよいのではないかと。

事務局

(回答)

- ・本計画に位置付ける各事業については、最上位計画である小田原市総合計画に位置付けており、総合計画の計画期間が令和4年度までであることから、事業の統合等整理については、次期総合計画策定に向けて検討をしていく。
- ・計画期間が3年という短いスパンの中で、高齢化や社会情勢も変わり、コロナ禍ではあるが、現状の総合計画に位置付けた枠組みを基本にして取り組んでいく。
- ・検討という部分については、事業を進めて行くなかで、しっかりと検討をして第9期計画に反映していく。

委員

(意見)

- ・第9期計画策定を検討する議論をするためには、第8期計画の中で検討や変化していくといった要素が入っていると変わっていくと感ぜられるのではないかと。
- ・第8期計画は、第7期計画と比べて、掲げているものは現場を踏まえた内容になっているが、もう一步進んでいてもらいたい。
- ・2025年、2040年を見据えて、第8期計画の中に変化という要素を入れていただきたい。

委員

(意見)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から貧困家庭が増加し、貧困であることから介護サービスを受けることのできないかたがいるのではないかと。貧困家庭に対する対策も考えていかないといけないのではないかと。

委員長

(意見)

- ・資料1の図表や文章が第7期計画と同じようなものになってしまうのは、既存の制度上に様々なものをのせているからであり、ある程度仕方ないのではないかと。
- ・第8期計画は、第9期計画、第10期計画に続いていくということを明確にするとよいのではないかと。
- ・先ほど委員から何も変更点ないと指摘があったが、これまでは、高齢介護課だけでやっていたことに、保険課や健康づくり課が参加しているように広がりを見せている。資料1、50ページ、51ページの表を見ていると変化がないように見られるが、細かい部分を拾うと見えてくる部分もある。また、過去の委員会で再三取り上げられていた介護人材確保の問題についても取り上げられるなど、変わるべき部分で変わっていると感じている。
- ・本計画は、総合計画のもとにあるが、委員が担うべきところに対してまとめおかないと、最上位計画である総合計画すらしっかりとしたものにならない可能性があるため、第8期計画の中でしっかりとまとめておくべきである。

委員

(意見)

- ・少ない人数で多くの高齢者を支えていく時代を迎えるにあたって、現役から退いた方を介護人材確保として取り込んでいく必要がある。
- ・住民主体通所型サービスのような地域の方が参入するサービスをもっとクローズアップする必要があるのではないかと。

委員長

(意見)

- ・資料1、50ページ、51ページの表は、第7期計画策定時に作成され、全体がうまく見えることのできるものであったが、時間が経ち議論が深まったことによって浮き彫りになった、足りていない部分、問題点について検討を続ける等を市の意思として記載できるとよいのではないかと。
- ・人口減少の状況にあり、高齢化が進む小田原市において、支え手が減少することが見込まれるなかで、視点4として『地域包括ケアシステムを支える人材の確保』という

表現で記載がある。特別な人材であるというイメージを持ちがちであるが、全員参加で取り組まないと間に合わないということが表現できると分かりやすいのではないか。

委員

(意見)

- ・資料1、51ページ記載の高齢者体操教室について、参加者が固定化しており、新規参加者が参加するのが難しいとあったが、高齢者は、運動をすることを継続的に続けていかないと、辞めてしまうため、新たに場所を確保するなどやり方を工夫して、以前から参加している方にも対応してほしい。

委員

(意見・質問)

- ・現場の声を計画に反映することが必要である。
- ・在宅介護実態調査で、抱える不安として、夜間の排泄が不安であるという結果が出たが、どのように対応するのか。

委員長

(意見)

- ・夜間に関しては、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスで対応しているので、拡充をしたいという話が以前から出ている。個々の家庭で苦勞しているものをサービスとして通所介護や訪問介護の事業所が対応するのは難しいため、多くの職員数を抱えているような法人がやらなければいけないという観点からサービスを展開していくというのが現状ではないか。

委員

(意見)

- ・以前は、夜間訪問という専門のサービスもあったが、担い手不足からなくなってしまった。現状としては、夜間の仕事をできる人が減ってきている。

委員

(意見)

- ・家族がいて、ケアマネジャーや地域包括支援センターが支えていて、皆でやっという方針を、すり合わせてさらに追及していくことを計画に反映することができるとよいのではないか。

委員

(意見)

- ・介護保険を使うことが、高齢者を介護することのゴールのようになっていった経緯があるので、地域で支えることができるようにし、最後の砦として介護保険を使うような考え方、意思を第8期計画で示すことが必要である。

委員

(意見)

- ・新型コロナウイルス感染症の時代をどのように乗り越えていくのか。
- ・地区において、16人の独居高齢者の方を訪問しているが新型コロナウイルス感染症の影響から、家に上がらないなど接し方が変わっている。認知症の傾向が見られるような方が多くなったような感覚がある。

委員

(意見)

- ・前回の委員会で公民館にWi-Fi環境を整備したらどうかという意見があったが、視点5の『「新しい生活様式」を踏まえた事業手法の検討』に含まれていると受け止めており、是非整備していただけるとよいのではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響から貧困の方が増えていくのではないかとということ、感染が不安で引きこもりになり、孤立する方が増えるのではないかとということ、虐待に繋がるケースも増えてくるのではないかとということから、地域包括支援センターの負担が増えていくのではないかと。

委員

(意見・質問)

- ・資料1、69ページから始まる部分は、保険課と健康づくり課が関わり追加されているが、特定健診と長寿健診の受診率や、その他の数字が全国平均より低いということを踏まえて、どのように工夫・変更することで健診の受診率が上がるのかを考えて見込を検討してもらいたい。
- ・資料3において、審査会の合議体ごとに審査基準にばらつきがあると記載があるが、資料1に審査基準のばらつきを平準化するような取組を計画の中に記載するのか。

事務局

(回答)

- ・審査会における合議体ごとの審査基準のばらつきに対する対応については、振り分けとして、事業として計画に載るようなものではないため、記載をしていないが、研修などの取組をしっかりと実施する。

委員長

(意見)

- ・以前新聞に要介護認定の変更率が高い自治体として小田原市が取り上げられたが、介護保険の認定制度は、各審査会に委ねられているのにも関わらず、機械が出す1次判定を基準にすることを強要しているように感じた。標準化を求めるのであれば、全て機械判定で行えばよいのではないかと感じた。変更率が高い低いということだけで取り上げているのは本末転倒ではないかと感じた。
- ・小田原市の特性として、人口が一定数いて、面積も広く、公共交通網が脆弱であるなかで、なんとか生活している人が介護保険を申請するという状況は、都市部や地方の田舎とは違うため、全国の平均と比べても意味はないのではないかと感じた。本計画は、小田原市の計画であるので、小田原市の特性を押さえて作成する必要がある。また、制度の簡略化のように、まとめることができるものは、まとめる必要がある。関連するところは、今回、保険課や健康づくり課が関連してきたように関連させることが、2025年に向けて重要なことではないかと感じた。

委員

(意見)

- ・資料1、37ページの在宅介護実態調査結果を見ると、介護保険サービス利用状況は、フルタイム勤務の方に比べて、パートタイム勤務の方は低く、働いていない人は更に低い。サービス未利用の理由として、「本人にサービス利用の希望がない」があがっているが、自己負担の部分に関わってきているのではないかと感じた。介護があるから働くことができないという方にどのように対処するのかを考えていく必要がある。
- ・高齢者のいる世帯が増えている。介護している方は仕事に行けないなど、家族に大きく負担がかかっているため、しっかりと対応が必要である。
- ・予防と介護人材確保の2点にまず手を入れるべきではないかと感じた。高齢者の予防を踏まえて介護人材確保をする必要がある。資料1、44ページの人材確保に関するアンケート結果に職員の離職原因について記載があるが、パーセンテージの高い「人間関係」や「他の待遇のよい仕事に転職する」ということに対して分析をして手を打っていくことが離職を減らす事に繋がるのではないかと感じた。働くことにより、認知機能の低下を防ぐことに繋がるため、人材確保については、高齢者の予防を踏まえたうえで確保していくことも大切である。
- ・資料1、13ページ記載のとおり、要支援・要介護認定者の有病状況の推移においては、「筋・骨格」がかなり多いとの結果が出ているため、しっかりと対応すると予防に繋がるのではないかと感じた。
- ・お金と介護予防と人材確保は繋がっているということ踏まえて分析をして計画に反映することができればよいのではないかと感じた。

委員長

(意見)

- ・資料1、50ページ、51ページに視点1～5が並んでいるが、視点の順番の変更を検討するのはどうか。
- ・横断的な部分が重要なので、分かりやすいように変更することができればよいのではないか。
- ・第8期計画には、人口減少と高齢化、担い手不足を意識した書き方が求められる。視点5については、新型コロナウイルス感染症の話題は外せないのではないか。前向きなメッセージが入るような計画になるとよい。

2 事業所等指定について

協議事項（1）介護保険事業所の新規指定等について

事務局

(説明)

- ・資料4に基づき、介護保険事業所の新規指定について説明し、承認を求める。

委員長

- ・承認について採決を求める。

全委員

- ・全員承認。

3 その他

事務局

- ・次回の会議は、11月12日（木）午前9時30分から、おだわら総合医療福祉会館4階ホールを予定している。